

みどりアップQ

緑×まち×未来を考えよう

Vol. 3
Mar.2015

Q 横浜の田んぼを、 守るためには？

横浜
みどりアップ計画
市民推進会議
レポート



目次
ヒトも、生き物も、集まる田んぼ
地域緑のまちづくり
ウェルカムセンターにこう

写真：青葉区田奈町の田んぼ

横浜みどりアップ計画では、緑を減らさないため、さまざまな努力がなされています。こうした取組は、私たち市民の横浜みどり税に支えられています。今号では、田んぼを守っていくことについてレポートします。

「地域緑のまちづくり」提案募集

地域の皆様が主体となり、実現していく「地域緑のまちづくり」。新規提案を募集します。町内会やご近所同士など、緑が好きで自主的に活動できるグループでチャレンジしませんか。

ポイントその1 近所の仲間で、まちにぴったりの緑を。

住宅街や商店街、オフィス街、工場地帯など様々な街で、地域が主体となり、地域にふさわしい緑の計画をつくり、実現します。

ポイントその2 選考があります。

アイデアを計画にまとめて応募したのち、一次の書類選考と二次の面談等による選考を通過した団体が助成を受けられます。

ポイントその3 助成は最長3か年、年最大500万円。

選考を通過した緑化計画に基づく、緑化の整備や緑の維持管理活動に対して、助成が受けられます。

平成26年度、二次選考で選ばれた団体をご紹介します

- 洋光台一丁目町内会みどりアップ委員会（磯子区）**
…町内会館、街路樹ますの緑化
 - 南中あじさい咲かせ隊（南区）**
…南中学校周辺、沿道の緑化
 - やもと農塾（青葉区）**
…戸建住宅の沿道緑化
 - 竹山連合自治会（緑区）**
…団地内の池周辺の緑化
 - 金沢文庫すずらん通り商店会 みどりアップ事業部（金沢区）**
…商店街の緑化
 - 花と緑の委員会（磯子区）**
…マンション敷地の沿道緑化
- ※計画内容の詳細は、ホームページをご覧ください。

新規提案を募集します

平成27年度の新規提案を4月から募集します。説明会や計画作成の支援講座も開催予定です。詳しくは、ホームページやメルマガで随時お知らせします。

[地域緑のまちづくり](#) [検索](#)

●問合せ 環境創造局みどりアップ推進課
☎ 671-3447 ☎ 224-6627

森とわたしをつなぐ場所 ウェルカムセンターにこう

連載

第1回 横浜自然観察の森 自然観察センター (栄区上郷町 1562-1)

横浜つながりの森を構成する、横浜自然観察の森にある自然観察センター。自然の専門家レンジャーが常駐するほか、生き物紹介の展示や自然を楽しむイベント、市内の森の情報が満載です。ボランティア団体による行事も多数開催しています。



自然観察センター内の様子



レンジャーによる森の解説

開館時間：午前9時～午後4時30分（自然観察の森には開館時間外、休館日でも入園できます）
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12/28～1/4）

アクセス：京浜急行金沢八景駅から、神奈川中央交通バス（船08系統、金24系統、金25系統）「横浜霊園前」下車徒歩7分
※上郷・森の家の駐車場が利用できます（有料100台、なるべく公共交通機関をご利用ください）

イベント情報

季節の森を歩こう

季節や生き物のつながりを楽しむガイドツアー。

日時：毎月第1日曜日

①午前11時～正午、②午後1時～2時

対象：どなたでも（小学生以下は保護者同伴）

申込み：不要（当日時間までに自然観察センター前へ）

●問合せ 横浜自然観察の森 自然観察センター
☎ 894-7474 ☎ 894-8892

横浜みどりアップ計画とは

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。（個人市民税均等割に年間900円、法人市民税に均等割の9%相当額を上乗せ）計画書は、環境創造局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報センター、環境創造局政策課で閲覧できます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyomidoriup/>



横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

[市民推進会議](#) [検索](#)

みどりアップQとは

みどりアップQの「Q」は「みどりアップをもっと知る、なぜなに？（クエスチョン）」と、「緑のある暮らしの質（クオリティー）」を考える。市民目線でみどりアップ計画を探っていく市民推進会議のレポートです。

問合せ 横浜市環境創造局政策課（事務局）
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
☎ 045-671-4214 ☎ 045-641-3490
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp

みどりアップQ 第3号
(市民推進会議広報誌 第23号) 平成27年3月発行
編集：横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行：横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

横浜みどりアップの現場にフォーカス！

ヒトも、生き物も、集まる田んぼ

住宅が並ぶ都市の風景と隣り合わせに、広大な田園風景が広がる青葉区田奈町。そこに、^{みつべすすむ}三部進さんの田んぼがあります。恩田地区で水利組合長を務める三部さんに、田んぼの仕事の楽しさと、米作りを続ける思いについてみどりアップ計画市民推進会議の委員がお話を伺いました。

(取材 相川健志委員 編集 東みちよ委員)



ホウネンエビのすむ田んぼ

ホウネンエビ（豊年蝦）が現れると豊作になるといわれています。このエビは、水質の悪化や化学薬品に弱く、横浜市内では近年ほとんど見る事ができなくなっていますが、三部さんの田んぼには毎年現れるそうです。「いろいろ工夫して、農薬使用量も5割くらい減ったからかな」と三部さん。ほかにも、トウキョウダルマガエル、ニホンアカガエル、トンボなどの生き物が集まり、田んぼは生態系を育む場所となっています。



ホウネンエビ (写真：環境科学研究所)

田んぼをとりまく環境のはなし

田んぼをとりまく風景は今と昔では様変わりしました。「昔の恩田川は蛇行し、川の両岸に竹林、雑木林がある谷戸でした。川の近くの田んぼは台風が来ると水浸しになったものです。今の恩田川は、まっすぐに整備され、水害はなくなったけど、雨水を蓄える谷戸がなくなり水量が減っているかもしれないね。昔は谷戸から集まってくる湧水を田んぼに引いていたけれど、今は地下水のみ上げと、恩田川につながる奈良川からポンプで水を引き込んでいます」。変わらないもの、それは田んぼと川の深い繋がりで。



三部さんと収穫間近の稲穂。毎年このお米を楽しみにしている人たちがいます。



除草剤を使わない体験水田では、草取りは欠かせない作業です。「子どもってかわいよ、言うことを聞く子どもいれば、聞かない子どももいるけど」と三部さん。



田植えから収穫までを体験

田奈恵みの里が 15 年近く続けている体験水田。このイベントでは参加者を市民から募集し田植え～草取り～収穫～収穫祭を体験します。昨年は 90 人近くが参加しました。三部さんが協力し始めたきっかけは、「先輩方がやっておられたから。子どもにとって、自然に触れるのがいいんじゃないの？米がどうやってできるのか知るいい機会だし、どろんこ体験もいいこと。欲しいものがすぐに手に入る今の世の中、苦勞をして米がどうやってできるかを知り、もののありがたさを体感することも大切だよ」と三部さん。

どろんこになりながら田植えをし、自分たちの手で収穫したお米を食べた経験は、子どもたちの心に豊かな記憶として残り続けることでしょう。

写真上 キヌヒカリなどのうるち米やもち米を作っています。毎年変わる気象条件の中で、発芽させ収穫に至るまでは、試行錯誤の連続です。写真下 稲刈り後の田んぼに種をまき、4月下旬から5月中旬にかけてピンクの花を咲かせて見る人を楽しませてくれるレンゲ。空気中の窒素を固定し、緑肥にもなります。



田んぼを続けるということ

家業としての田んぼの仕事は、決して楽ではありません。あまり収益が期待できない、後継者がいないなど、さまざまな課題があります。

それでも、三部さんが田んぼを続けるには理由がありました。「毎年、私の作ったお米を楽しみに待っている人がいるから、やめられない」と笑う三部さん。今は4ヘクタールの田んぼでお客さんからの注文の分を主に作っているそうです。そして、サラリーマンの息子さんが会社を辞めて家業を継ぐ決心してくれたこと、これも大きな理由です。

そんな三部さんに、田んぼの仕事の楽しみを尋ねました。「苗が育って、田んぼに稲の株がきれいに揃っているのを見るとうれしい。稲作はその年々の気象条件で変わる、何しろ自然が相手だから難しいんです。でも自分なりに育ち具合を見ながら作業して、うまくいった時はうれしいものです」。

都市の田んぼの魅力、その一方で

そんな田んぼの風景は、近隣住民にとっても癒しの風景として親しまれています。恩田川沿いを散歩する人も多く見かけます。でも三部さんは、マナー違反者に心を痛めることもしばしば。「平気で田んぼや畑に立ち入り犬を散歩させ、荒らされたこともありました。田畑は、我々にとっては職場なんです。田んぼを守り、田んぼと共存するために、私達もマナーは守りたいものです」。



ここにみどり税！

水稲作付を10年間続けることを条件に水田保全奨励金が交付されます。

土地のものが食べられる幸せ

(取材 大竹斎子委員)

横浜という大都市で地産地消ができるのは、気候に恵まれ、少量多品種で生産されているから、都市のすぐそばに農地があり、消費者が近くにいるからです。これは極めて稀で、幸せなことです。

地産地消は、輸送コストを抑えるので、エコの面でも優れています。今では多くの直売所で新鮮でおいしい農産物が手に入ります。

「和食」が世界文化遺産になりましたが、若い人や子どもたちに継承するためには、土地のものを土地の風土に合わせ、行事とともに伝えていくことが大切です。そのためにも、地産地消は今後ますます重要になっていきます。

直売所
ピックアップ

田奈恵みの里 農作物直売所「四季菜館」^{しきさいかん}

住所 青葉区田奈町 52 番地 8

営業 10 時～ 17 時 (5 月から 10 月は 18 時まで)



今回ご紹介した田奈町で作られたお米や野菜も販売しています。

Q 横浜の田んぼは減っているの？

A かつては横浜にも水田が多くありましたが、宅地利用や畑への転換などにより、減少の一途をたどっています。平成 21 年度から始まった横浜みどりアップ計画で、水田景観を保全するために、水田保全奨励金が交付されるなどの取組が進み、現在では市内で水稲が作付されている水田のおよそ 8 割 (約 120ha) が保全されています。

Q なんで田んぼは大切なの？

A 田んぼは、米を生産する場としてだけでなく、いろいろな生き物のすみかになる役割、暑い時期に気温を下げる役割、雨水を一時的に田んぼに貯めることで洪水を防ぐ役割、地下に水を浸透させ地下水をつくる役割などを担っています。また、環境教育や食育の場としても活用され、美しい田園風景は、私たちの心を和ませてくれています。